

紀州へら竿・隠れ谷池

100年以上にわたり、橋本の職人たちは地元で茂る竹の一種を使って紀州へら竿と呼ばれる手作りのしなやかな釣り竿を生産してきました。どのへら竿も20人いる地元の職人の誰かが始めから終わりまで手作りで仕上げたものです。釣りの愛好家に大変人気のあるこの伝統的な釣り竿を1本仕上げるのには、6か月から1年かかります。

へら竿は、ほとんどの小型から中型の魚を釣るのに使うことができますが、地元では主に特徴的な鉤が二つある仕掛けを使ってへら鮒（*Carassius cuvieri*）を釣るのに使われます。

隠れ谷池では、へら竿を試してみることができます。安い料金で大きなへら鮒のキャッチ・アンド・リリースを行えます。初心者や気の弱い人は、うどんの切れ端や練った小麦粉を餌として使う地元の習慣をありがたく感じるでしょう。